

2025 年 9 月 21 日 説教「悪霊を追い出す神の霊」

ルカの福音書 11 章 14～26 節

11 章は「主の祈り」の教えに続き、「求めよ、捜せ、叩け」という願祈りについて、夜中に訪問者のため執拗にパンを求めるたとえをもって語り、最上を与えられる方が聖霊をくださると教えられました。

1. 悪霊を追い出したイエスへの批判 (14～16 節)

- ①悪霊を追い出し (14)「**イエスは悪霊、それも口をきけなくする悪霊を追い出しておられた。悪霊が出て行くと、口がきけなかった者がものを言い始めたので、群衆は驚いた。**」

イエス・キリストは悪霊を追い出されました。ここでは、悪霊のゆえに口がきけなくなっていた人から、悪霊を追い出したのです。そうすると、話すことが出来なかった人が、ものを言い始めることができるようになったのです。それは、ヘレン・ケラーが「ウオーター」と発音できたのとは違う出来事です。つまり、福音書は、悪霊のゆえに話すことを閉ざされていた人が、悪霊を追い出されたがゆえに話せるようになったということです。

- ②批判する輩 (15)「**しかし、彼らのうちには、『悪霊どものかしらベルゼベルによって、悪霊どもを追い出しているのだ。』と言う者もいた。**」

群衆の中のパリサイ人と思われる人 (マタイ 12:24) が、イエスは悪霊どものかしらであるベルゼベルと共になって、悪霊を追い出していると批判したのでした。ベルゼベルとは元々は「住居の主」という意味の言葉でしたが、転じて「悪霊達のかしら」となっていったのです。

- ③しるしを求める者 (16)「**また、イエスをためそうとして、彼に天からのしるしを求める者もいた。**」

別のパリサイ人でありましょうか、イエスをためそうとする者がいました。その人はイエスに天からのしるし、奇蹟を求めました。イエスは目的なしに、奇蹟はなさいません。ましてや、挑発に乗って御力をあらわすことはなさいませんでした。

2. ベルゼベルによって悪霊を追い出したという矛盾 (17～20 節)

- ①サタンの国 (17～18)「**しかし、イエスは、彼らの心を見抜いて言われた。『どんな国でも、内輪もめしたら荒れすたれ、家にしても、内輪で争えばつぶれます。サタンも、もし仲間割れしたのだったら、どうしてサタンの国が立ち行くことができます。それなのにあなたがたは、わたしがベルゼベルによって悪霊どもを追い出していると言います。』**

イエスがベルゼベルによって悪霊を追い出していると主張した者には、言われます。つまり、彼らの言うことは、サタンの国に内輪もめがおきているということになる、と急所をつかれました。さらに、サタンの治める悪霊同士で仲間割れしたのなら、その国は成り立たないでしょうと論ぜられます。

- ②矛盾をつくイエス (19)「**もしもわたしが、ベルゼベルによって悪霊どもを追い出しているのなら、あなたがたの仲間は、だれによって追い**

出すのですか。だから、あなたがたの仲間が、あなたがたをさばく人となるので

イエスは畳みかけます。「あなたがたの仲間は、だれによって悪霊を追い出しているのですか。やはり、ベルゼブルによってですか。もしそんなことをあなたがたが仲間と言ったとするならば、あなたがたの仲間はあなたに、おかしなことを言うなど、反論することになるでしょう。」と。

③神の指によって (20)「しかし、わたしが、神の指によって悪霊どもを追い出しているのなら、神の国はあなたがたに来ているのです。」

そして、イエスは、ご自分が神の指によって悪霊を追い出されたことを言われます。つまり、聖霊によってそのわざはなされたのです。その結果、そこに、神の国が来ていると言われたのです。主の祈りで「御国が来ますように」と教えられた主は、ご自身の悪霊追放によって御国が彼らのところに来ているのだと教えられています。

3. 悪霊たちの立ち戻り (21～26 節)

①より強い者の来襲 (21～22)「強い人が十分に武装して自分の家を守っているときには、その持ち物は安全です。しかし、もっと強い者が襲って来て彼に打ち勝つと、彼の頼みにしていた武具を奪い、分捕り品を分けます。」

サタンが悪霊を使って、自らの陣を堅く守っているときには、サタンは陣を守っています。しかし、しかし、さらに強い神の指 (聖霊) がそこに働きかければ、サタンの支配していた悪霊たちは追い散らされていくのです。イエスに味方しない霊的存在は、追い払われてしまうのです。

②休み場を捜す汚れた霊 (24)「わたしの味方でない者はわたしに逆らう者であり、わたしとともに集めない者は散らす者です。汚れた霊が人から出て行って、水の無い所をさまよいながら、休み場を捜します。一つも見つからないので、『出て来た自分の家に帰ろう』と言います。」

また、たとい霊媒師たちが悪霊を追い出すことがあったとしても、それはただ出て行くだけなのです。一方、追い出された汚れた霊 (悪霊) たちは、うろろろとさまよい、水を求め、休み場を捜すのです。結果的には、落ち着く所が見つからないと、元いた所に帰ろうということになるのです。

③他の霊を連れて (25～26)「帰って見ると、家は、掃除をしてきちんとかたづいていました。そこで、出かけて行って、自分よりも悪いほかの霊を七つ連れて来て、みな入り込んでそこに住み着くのです。そうすると、その人の後の状態は、初めよりもさらに悪くなります。」

元の家に戻った悪霊は、そこは他の悪霊もいないので、まるで掃除をしたあとのようにきれいなを見ます。そこで、そこに入り込み、落ち着くことになるのです。そればかりか、仲間の七つの悪霊を連れてきてそこに住み着くようになります。そこは以前よりも悪い状態になってしまうのです。

《結論》この聖書箇所には、霊の世界が見え隠れして、興味深いです。それは、イエスが口をきけなくさせる悪霊を、追い出されたことから始まります。それに対し、イエスを追い詰めようとするパリサイ人と思える人が、イエスはベルゼブルによって、悪霊追放をしているのだと批判しました。イエスは聖霊がベルゼベルを配下において、悪霊追放することなどありえないことを教えられました。ベルゼベルを含めた悪霊たちは、どこまでもサタンの配下にあります。当たり前と思えることが、彼らには理解されていなかったのです。霊の世界における秩序というものをここに確認しておきましょう。

さらに確認させられることは、悪霊が絶えずその住み家を捜しているということです。そして、悪霊はどこかに空き家があると、そこに住み着こうとするということです。ことに、その場所が何らかの経緯で悪霊が追い払われた空き家は、入り込みやすいのです。たくさんの悪霊を引き連れて入り込み易いのです。それが、私達のなかでも実際あるのですから、よほど気をつけなければなりません。私達の魂が何らかのかたちで空き家のような状態であれば、悪霊はそこに入り込もうと虎視眈々と狙いを付けています。そして、いつの間にか悪霊の棲家にされてしまうかもしれません。実際のところ、悪霊が私達のなかに入り込めば、悪霊は神を否定する思いを与えます。さらに悪霊は私達の中に働きかけて、「不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興」(ガラテヤ書 5 章 19～21 節)といった類の思いや行いをもたらすのです。サタンは私達に、父母への不敬の思い、殺人の思い、姦淫、盗み、偽り、隣り人の家を欲しがる思い(出エジプト 20:13～17)などをもたらすのです。

確認したいことは、悪霊はクリスチャンの魂にも入り込もうとして、狙いを付けているということです。祈禱会で第一コリントを読んでいるのですが、コリントの教会とクリスチャンのうちに悪霊は入り込んで、分裂・分派をもたらし、上記のような問題を引き起こしているのです(Ⅰコリント 6:9 節以下)。初期のエルサレム教会において、最も悲惨だったのは、アナニヤとサツピラ夫妻がサタンに心を奪われ、聖霊を欺き、不正を働き、裁かれたという出来事でした(使徒 5 章)。先週、サタンは明らかに私たちの群れに揺さぶりをかけました。悪魔の策略に立ち向かうために、神の武具を身につけましょう(エペソ 6:11 以下)。

しっかりと覚えないことは、この世的な考え、思いのなかには悪霊がつかこみやすいということです。そして、その悪霊をもう一つの悪霊で追い出すはできないということです。主により「神の指によって悪霊を追い出してください」(ルカ 11:20)しかないのです。そして、聖霊によるお取り扱いを頂く時に、「神の国は私たちのうちに到来するのです」(同節)。すなわち、「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」(ガラテヤ 5:22～23)といった祝福がもたらされるのです。「御霊によって歩みなさい」(ガラテヤ 5:16)というお言葉を覚えましょう。それはまたイエス・キリストにとどまるということでもあります(ヨハネ 15:4～5)。キリストにつながりましょう。